



7月
お涼み会



10月
ハロウィン



8月ビアホール

ぽれぽれの友

44

2023.01.06 発行

12月クリスマス会



委員会活動 (防災)

今年度、地震避難訓練を実施しました。一番困ったのは、机の下に潜るというイメージをもてる利用者様がおられなかったことです。机の下をそのままぐり抜けてしまう利用者様が多かったことに驚きを隠せませんでした。利用者様に地震が起きたときにどのように身を守るか『机の下に隠れる』『頭を守る』をどうやってお伝えするかなど、課題は残りますが、大切なのは継続して訓練を実施することだと考えています。今後も利用者様と職員と共に命を守る訓練をコツコツ積み重ねていきたいと思ひます。

(防火管理責任者 徳田真治)



今年度はいつもと違う企画として、日帰りコースだけではなく、蒜山のコテージに泊るコースも立てました。

最初は少し戸惑っていた利用者様もいましたが、徐々に慣れて来たのか、笑顔が沢山見られました。幸い天候にも恵まれ、蒜山ジャージランドを散歩したり、昼食はジンギスカンを食べました。今後も施設生活の中で少しでも楽しみが持てるように、いろんな企画や機会を提供したいと思ひました。

(支援リーダー 角原光貴)



施設旅行



栄

養

通

信

明けましておめでとうございます。

昨年11月下旬より給食室の改修工事を行っています。それに伴い、先立って建設した仮設給食室が、同じく昨年10月下旬から稼働しています。

仮設給食室では、従来のクックサーブ方式(現地で調理して提供)とは違い、クックフリーズ方式(調理後に急速冷凍したものを提供時に再加熱)での食事提供を行っています。今までの調理方法や提供方法と勝手が違い、利用者の方々にとっては大歓迎とはいかない事もありますが、改修工事期間中の安心・安全な食事提供を一番に考えて、給食会社の魚国総本社様と協力しながら実施しています。どうぞよろしくお願ひいたします。

(管理栄養士 吉崎郁子)



健康通信

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

コロナ禍で迎える四度目の新年ですが、ご家族の皆様には不安な日々の中にもお健やかに新年をお迎えのことと拝察致します。ばれども利用者様、職員共に無事に新しい年を迎えることができ安堵しています。

さて、医務では昨年七月に実施した集団検診の結果を踏まえて、再検査の必要な利用者様の採血等を嘱託医と相談しながら順次行っているところです。

ところで、今冬は新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスの同時流行が懸念されています。当施設ではすでに新型コロナワクチンの5回目接種も、インフルエンザワクチン接種もほぼ終わっていますが、今まで以上に職員一人ひとりが感染対策を徹底し、利用者の方々に元気で一年過ごしていただけるよう健康保持のためのアプローチをしっかりしていきたいと考えています。(看護師 久森正子)

新年にあたり

理事長 梶谷勝彦

明けましておめでとうございます。去年はぽればれ誕生20周年でありました。11月5日祝賀の式典も無事終えることができました。関係者の皆様に感謝申し上げます。更なる30年に向けて歩んでゆきたいと思えます。

さて「卯年」といえば、「飛躍」「向上」する年であるとされています。兎は跳ねる特徴があり、景気が上向き、回復すると言われています。その通りになることを期待します。

最後に、地元の皆様、家族会の皆様、理事、評議員役員の皆様のご支援を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

職員一同、楽しく、明るくがんばってゆきましょう。

新年のご挨拶

管理者 山本雅司

明けましておめでとうございます。

昨年は、創立20周年記念式典が滞りなく開催できましたこと、大変喜ばしく思っております。改めまして各関係の皆様方には、感謝を申し上げます。

21年目を迎える今年、ここからまた新たな歴史を刻んでいくことに、少なからず重責も感じています。これから施設にとって何が必要であるのか、足りないものは何か、そして今、何を求められているのかをしっかりと受け止め、向かうべき方向へ一歩ずつ帆を進めていきたいと思えます。

従業員一同も、「利用者、保護者の皆様に喜んで頂く」という基本に立ちかえり取り組んで参ります。そして昨年以上に、明るい話題をご家庭にお届けしていきたいと思えます。

本年も一層のご支援、ご協力をお願いいたしまして、新年のご挨拶といたします。

ご挨拶

ぽればれ家族会 神門茂美

コロナ禍の生活が日常になり、制限も多くあったのがウィズコロナの時代が変わっていきようとしています。家族会での行事も中止になることが多くありましたが、その中でも子供達はいろんな体験をして楽しく過ごしているようです。子供達が健康で楽しく充実した生活を送れることが親としての願いであり、スタッフの方々には感謝しております。これからもよろしくお願ひします。

20年目を迎えて

この度、4人の職員が勤続20年を迎えることができました。これもひとえにご利用者様やご家族様、この施設に関わった皆様のご指導とお力添えのお陰と深く感謝しております。この場をお借りして、御礼申し上げます。

さて、福祉制度の変遷に目を向けると、この20年間に高齢化社会が社会保障費の分布図を大きく塗り替えていくに伴い、福祉制度もその姿を変えていきました。変化し続けていく社会環境や福祉制度に背中を突かれつつ、次の5年、次の10年を迎えられるよう、サービスの向上とご利用者様のウェルビーイングにむけて一層の精進を重ねて参ります。

今後とも、ご助言ご指導を賜りますようお願い申し上げます。
(サービス管理責任者 土山英彦)

「ぽればれ」をさらに充実させたい

岡山県立大学 客員教授 景山哲臣

今日も「ぽればれ」の皆さんが、平安なうちに過ごされ、うれしい限りです。全ての方が、笑顔で、一日一日が無事であることを願うばかりです。

私は「ぽればれ」の設置が義務づけられている第三者委員会の一員として、施設がかかえる問題の分析、解決方法を考え、二度と起らぬ対策をアドバイスする立場におります。ただ昨今の委員会は問題もへり、入所者様へより高度なサービスを考える会になっており、喜ばしく存じています。

また、施設に従事される職員に、多少でも教育に携わる者として、特別授業も年に一、二度行っています。入所者様への心得、絶対に許されぬ行為などをはじめ、施設の社会的重要性を全員で再確認しています。入所者様お一人お一人が快適な生活をして頂くことが、職員の充実した毎日であり、職業人としての喜びであることを再確認しております。講義ごとに理解が深まり、日々の仕事に前進があると実感しています。

「ぽればれ」という貴重な社会福祉施設を通して、より良い生活が送れますように、さらに努力しなければならぬと欲ばっています。まだまだ、不十分なことも多いと常に思っています。講師として、第三者委員会の一人として努力する所存です。

皆様今後ともよろしくご指導下さい。

20周年記念作品作り

今回20周年の作品を作成するという事で、『利用者様全員が参加すること』『ぼれぼれらしい作品にすること』にこだわりました。背景であります、紙チップは元々分場で作っていたものです。紙チップとは、古紙や牛乳パックをリサイクルして作る、LEGOのような、紙製ブロックです。それを、本場の利用者様全員が参加できるようにアレンジしました。利用者様には、材料をちぎる、ミキサーで混ぜる、紙チップを並べるなどの工程で参加していただきました。その他、絵が好きな利用者様に馬など書いていただき、色もタッチもオリジナルの状態のものを使いたかったので、そのまま上から貼り、全員の手形も一緒に貼って完成しました。

(生活支援員 原 聖子)



寄付お礼 (順不同) 令和4年6月~令和4年11月

- ぼれぼれ家族会様
- 原 景子様 ○奥山 進様 ○内田 安重様
- 小橋 弘正様 ○西村 茂様 ○藤井 房江様
- 横山美佐子様 ○山本 敏子様 ○山崎 謙二様
- 高松屋暢克様 ○梶谷 勝彦様

お心遣いありがとうございました

訃報

評議員 延藤國男様が11月10日にご逝去されました。ここに生前のご厚誼に深く感謝申し上げ 謹んでお知らせいたします。

退職職員

三宅一史 溝川佐織
お世話になりました。

行事予定 (令和5年3月まで)

1月11日	新年会	3月3日	春の寿司
1月24~25日	健康診断	3月18日	理事会
2月15日	第三者委員会	3月21日	家族会奉仕活動

変更等になることも有り得ますのでご了承ください。

分場

分場では、創作活動を中心にした日中支援に取り組んでいます。中でも余暇活動では、ピクニックや調理実習、公園でお弁当を食べて散歩をする等の外出を行って来ました。

今年の夏、コロナウイルスの第7波流行により、分場の利用者様や親御様には大変なご迷惑をおかけいたしました。感染予防をしながらも、以前のような生活を取り戻すという時期に差し掛かっていると思います。引き続き感染予防と日中活動のバランスを取りながらの支援の組み立てを考えていきます。(生活支援員 永田晃)



編集後記



コロナの中、何なら出来るのか、どうすれば楽しんでいただけるかを考える1年でした。作成にあたり、ご協力して下さった皆様に感謝を申し上げます。

(広報委員 永田千香子)